

経済経営学類

令和4年度 私費外国人留学生選抜 小論文

資料は、阿部正浩、菅万里、勇上和史編著 『職業の経済学』(2017, 中央経済社)からの抜粋である。資料を読んで、以下の問題のすべてに解答しなさい(原典中の一部と小見出しは省略した)。

問題1 全体を400字以内で要約しなさい。

問題2 あなたが将来就きたいと思う仕事は、技術革新によってどのような影響を受けると思われますか。400字以内で述べなさい。

- ・ 解答は横書きとする。
- ・ 句読点や空白も字数に含める。
- ・ 算用数字およびアルファベットは1マス2字とする。

<資料>

<略> 財やサービスを生産するのに用いられる生産技術が労働者数にどう影響するかを見てみましょう。生産技術は、同じ質で同じ量の財やサービスを生産するために、どれだけの労働者とどれだけの資本を利用するかを決めています。

<中略>

同じ規模のトンネルを掘るのに、スコップという生産技術を用いることになれば、スコップと多くの労働者が作業することになります。が、シールド工法^{*}の場合には、シールドマシンと少ない労働者という組み合わせで作業することになります。

掘削の機械が開発されていない時代には、トンネルはスコップだけで掘られていました。そのために多くの労働者が雇われていました。しかし、トンネルを掘る機械が開発され、新しい掘削工法が発明されると、機械が多く用いられるようになり、雇われる労働者は減少します。新しい技術が開発されて、労働者の人数に影響したのです。

ただし、ここで注意しておかなければならないことは、新しい技術が労働者の人数だけでなく、労働者の仕事内容にも影響している点です。スコップを使う労働者とシールドマシンを使う労働者とは仕事内容が違います。前者は主に肉体労働ですが、後者はマシンの操作や管理が中心です。用いられる技術によって、仕事内容が異なり、求められる労働者像が異なるのです。これまでの研究では、新しい技術の登場によって、ある種の労働者は減少する一方で、ある種の労働者は増加することが知られるようになりました。シールド工法が登場して、スコップを使う労働者は減少し、シールドマシンを扱える労働者は増加したのです。新しい技術の登場で、労働者の雇用が減るような技術代替的労働需要が生じる一方で、ある種の労働者の雇用が増える技術補完的労働需要が生じているのです。

生産技術の労働者数に与える影響に関して、もう1点だけ注意があります。それは、新しい生産技術の導入によって生産性が高まることで、財やサービスの需要が拡大し、雇われる労働者が増える可能性があるということです。

例えばファミリーレストランについて考えてみましょう。今では街中にファミリーレストランをいくつも見かけるようになりましたが、これが登場したのは1970年代初めだそうです。ファミリーレストランは、それまでの個人経営の食堂やレストランと違って、どの店でも同一メニューが提供されるチェーン店（あるいはフランチャイズ店）であること、店で提供する料理の調理や下ごしらえを集中調理施設（セントラルキッチン）で行っていること、が特徴です。

ファミリーレストランでは、美味しい料理が比較的低価格で提供されていますが、それに大きく貢献しているのが集中調理施設です。集中調理施設で調理あるいは調理の下ごしらえが大量に均一にできることによって、調理のコストダウンにつながっています。こうした集中調理施設での低コスト調理が可能になったのは、冷蔵冷凍技術や電子レンジやオーブンなどの調理機器など、生産技術の進歩によるものです。

ところで、1970年当時の国勢調査によれば、調理人は104万人、給仕人が60万人でした。これはファミリーレストランだけでなく、食堂やレストラン全体を合わせた人数です。では2015年になるとそれぞれどうなったかというと、調理人が187万人、給仕人が159万人となっています。つまりこの45年間で、調理人は1.7倍に増加したのに対して、給仕人は2.7倍に増加したのです。

調理人よりも給仕人が増加したのは、レストランの生産技術の進歩と関係します。集中調理施設という生産技術の導入によって、調理人はあまり増えなかったのですが、生産性は高まりました。この結果、メニューを低コストで提供できるようになり、ファミリーレストランへの需要が増えました。すると、ファミリーレストランの店舗が増えたり、規模が拡大したりして、給仕人がより雇われるようになったわけです。業務用調理機器の技術進歩で集中調理施設の生産性は向上しているのですが、店舗での給仕はまだまだ人手によって行われているからです。

このように、ファミリーレストランでは、集中調理施設の調理機器によって調理人は技術代替される傾向にある一方、店舗での給仕は調理機器と技術補完する関係にあるようです。とはいえ、調理人が減少せずにむしろ増加したのも、集中調理施設による生産性の向上によって調理コストが下がり、ファミリーレストランへの需要が高まったからです。

* シールド工法……トンネルを掘削するための大型機械（シールドマシン）を使った工法。

令和4年度入学試験 小論文「出題意図」

(入試情報公開用)

経済経営学類 私費外国人留学生入試

阿部正浩、菅万里、勇上和史編著 『職業の経済学』（2017、中央経済社）から、pp. 229-231（34字×57行 約1,938字）を抜粋した。当該部分は阿部正浩による。

問題1 労働経済学分野の比較的平易な教科書からの抜粋を要約してもらうことで、日本語の読解力と経済学についての文意要点の把握の程度、日本語の文章力をみる。

問題2 自身の職業志望について、その職業・産業をめぐる客観状況についての認識をも含めて、的確な日本語で叙述できるかをみる。